

市場の活性化を考える会（第9回）議事概要

- 【開催日時】 令和2年10月16日（金）
【場 所】 第二本庁舎31階 特別会議室27
【議 題】 市場の活性化につながる戦略的な経営について

【議事概要】

（1）資料説明

事務局から基幹的なインフラとしての機能の強化、市場取引の活性化につながる取組、社会の一員としての責任の遂行、立地・機能に応じた市場間の役割分担等のあり方、施設の維持更新等のあり方等について説明

（2）主な発言

◆基幹的なインフラとしての機能の強化

- ・ 災害等のリスクが大きくなる中で、効率重視も重要だが、事業継続ということの優先度、価値として重要度が高まったと言える。効率ばかり追求すると非常時に対応できない。レジリエンス、回復性あるいはリダンダンシー、冗長性というBCP的な点を踏まえた検討が必要。
- ・ 価格形成機能は市場にとって極めて基本的な機能である。卸売市場の基本機能として、産地側、買手側、相手方に対するフェアプライシングは重要。
- ・ 今後とも市場が公正な価格形成機能、あるいは建値市場機能を果たしていく上では、多様な売買参加者を確保できることが重要。
- ・ 多様な市場参加者を確保するためには、市場業者の経営体力、経営力の強化が重要。市場法の改正も前向きに受け止めて、色々なチャンネルの開拓、販路の多角化、経営資源を補完し合うような事業者間の連携等が必要。新規参入や新陳代謝、血縁以外の事業の承継などいろいろなイノベーションに取り組んでいくような業者の活力が重要。

◆市場取引の活性化につながる取組

- ・ デジタルとリアルの融合への対応力を卸売市場として持つておくことが重要。一方だけではなく、両方をにらんだ上でチャンネル戦略を展開していくべき。デジタルが進化していくことによって、リア

ルの価値が高まっていく面がある。そういうオムニチャネル的な視点が重要。

- ・ Eコマースに対応していかない事業者が次の新しい環境変化に対応できるかという点と厳しい。複数チャンネルを持っている市場業者こそ強みを発揮でき、交渉力を持てる。
- ・ デジタルを通じた取引といっても、それを支えているのはリアルの世界。物流が重要であり、自動化や機械化など技術革新のイノベーションと同時に、市場業者が持っている一種の暗黙知や品質評価力も含めて、インプロビゼーションなどの強みをしっかり生かしていくことが大事。
- ・ 公と民との役割で言うと、情報基盤の整備を担う部分で都のリーダーシップが必要。コードの統一等は業者ごとでは難しいため、都の役割が重要。

◆社会の一員としての責任の遂行（SDGs経営）

- ・ 都はゼロエミッションを掲げているのだから、再生可能エネルギーを全面的に使うような市場があってもいい。全市場で取り組むのが難しければ、一部の市場からでもスタートすべき。
- ・ 持続可能な社会の実現に向けて、卸売市場も、社会の一員として環境配慮、地域社会との共生、あるいは働き方の改革など、社会的な課題に率先して取り組んでいくSDGs経営を目指すべき。
- ・ 社会における諸課題に対し、卸売市場も社会の一員として取り組んでいく。その際、都が関与する以上、「食を通じて都民の生活を豊かにする」ことを、上位の価値概念として位置づけるべき。
- ・ 市場の活性化そのものは行政上のゴールにはならない。都民の幸せとは何か。その幸せを構成する中に、食がある。家族や友人と食事することは、幸せの原単位であり、そのようなことを都が後押しをする。そのための重要な一機構として卸売市場がある。そういう大きな枠組みの中で捉えることによって、結果として卸売市場も活性化すると捉えるべき。

◆立地・機能に応じた市場間の役割分担等のあり方

- ・ 11市場を持つ都は、市場全体を見た上で、それぞれの市場をどう運営していくのか、全体最適としてどうあるべきか、という中長期的な考え方を整理すべき。
- ・ 市場配置の在り方を検討する視点で中長期的に考えるときに、現

状のままでよいのか。市場全体の配置のあり方、適正配置について検証、検討を行うべき時期に来ているのではないか。一つ一つの市場が必要か必要でないかという議論をするものではないが、現状ありきで議論するのでなく、中長期的な観点から再配置の考え方を整理すべき。

- 今の11市場は、規模の違いだけでほぼ同じような機能しか持っていない状況にあるので、機能、役割ごとに整理すべき。
- 11市場を全体としてどのように機能させるか。各市場はそれぞれ特色を持ち、役割分担をして補完し合うが、ネットワーク全体としてどう考えるか。そういう中で、市場の類型化も考えていくべき。どの市場もフルスペックの機能でやる、ということでは意味がない。まず11市場全体のネットワークという考え方があり、その上で各市場が機能分担していく、という整理が必要。
- 市場の類型化を案として提示し、画一的ではないそれぞれの市場の方向性を提示することについて、上からの押し付けではなく、方向性のすり合わせをしっかりとっていくことが市場業者の活力を維持する上でも大事。
- 人口が減り取扱量が減っていくときに、11市場も要らないのではないかという議論は出てくる。確かに取扱量は減るが、今ある11市場という資源、そのネットワークを最大限生かしていくやり方を考えることが必要。
- 将来事業計画をしっかりとっていないのが公共の最大の欠点。計画を数字で示しながら、それが変わることを悪だと思い込み過ぎている。変わっていくことを恐れず、コロナショックを契機に、行政経営の在り方を転換していくべき。

◆施設の維持更新等のあり方

- ライフサイクルコストの低減や更新時期の平準化、市場全体のアセットマネジメントは、当然行うべきこと。
- 都は複数の市場を運営しており、必要な施設の維持更新を計画性を持って責任ある体制で取り組む必要がある。

(3) 今後の予定について

- 第10回会議を11月上旬に開催する。